

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱第7条第4項の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和4年度第1回高松市子ども・子育て支援会議
開催日時	令和4年10月31日(月) 15時00分～16時45分
開催場所	高松市防災合同庁舎3階301会議室及びオンライン
議 題	(1)「第2期高松市子ども・子育て支援推進計画(令和2年度～令和6年度)」の推進状況調査結果について (2)「第2期高松市子ども・子育て支援推進計画」の中間見直しについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	加野会長、山田副会長、有岡委員、市原委員、香川委員、金倉委員、橘川委員、合田委員、鈴木委員、中橋委員、野崎委員、三木委員、溝渕委員、宮武委員、森委員 計15人
傍 聴 者	1人 (定員 10人)
担当課及び連絡先	子育て支援課子育て企画係 839-2354

審議経過及び審議結果
<p>会議を開会し、下記の結果となった。</p> <p>上記議題について事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。</p> <p><b>【主な質疑・意見等】</b></p> <p>議題(1)について</p> <p>(委員) 就学前の発達のゆっくりしている子どもへの特別支援の現状について、高松市では、特別支援の制度が充実しており、多くの子どもが地元の保育施設に、支援を受けながら通園できている。ただ数は少ないが、地域によっては保育施設の数が少なく受け入れてもらえないところがないため、地元から離れた遠方の保育施設に通わざるをえない子どもがいるのも事実なので、今後も特別支援の充実をお願いしたい。</p> <p>(事務局) 発達支援の子どもの受入れについて、公立の施設においては、すべての施設で行っているが、私立の施設においては、人員体制が整っていないことから一部受入れができていないところもある。本市では、支援が必要な子どもを受入れた私立の施設に対して、市独自の補助金制度を設けており、受入れの促進を図っている。 併せて、こだま学園に業務委託し、受入れ施設への支援員の巡回や施設職員への助言及び研修等を実施することで、スムーズな受入れができるようサポートしている。引き続きインクルーシブ保育の推進に努めていく。</p> <p>(会長) 別の会で、幼児教育を受けないで小学校に行くという無就園児がいるという話が</p>

## 審議経過及び審議結果

あったが、実態把握は何かできているのか。

(事務局)

正確な数字は手元にないが、就学前児童数に対する保育所等への申込み率や、幼稚園、認可外保育施設に通っている児童を考慮すると、どこにも通っていない0歳児を含む就学前児童は、2～3割程度だと思われる。

(委員)

高松市は全国と比較しても、人口に対して地域子育て支援拠点の数が多いので、生まれたらすぐに気軽に使えるように促しができたらいいと思う。他都市では、妊娠期から身近に感じてもらえるような工夫をしている自治体もあるので、高松市も取り組んでいただけると嬉しい。

また、高松市内に地域子育て支援拠点が31箇所あるが、完全無料なところと登録料や利用料について一部負担が必要なところがある。どの家庭にとっても利用しやすくするため、利用者負担をなくすよう各拠点にアドバイスされたらどうか。

また、現在、新型コロナウイルスの影響で少子化や結婚する人がかなり少なくなってきたため、将来、保育施設が定員割れし、園や地域によっては、保育の部屋も保育士も余るといことが起こるのではないか。その時に、保育士のできる仕事(子ども家庭相談員やソーシャルワーカーなど)についても見通しを立てておく必要がある。

(委員)

「保育体験事業」について、事業計画の中で大学生にも子育て体験の機会を提供するということが、この事業に大学生はどの程度入っているのか。また、幼児教育に興味のある学生だけではなく、今は興味がないが触れてみたら興味を持つという学生もたくさんいると思うので、ぜひ大学生を入れていただきたい。

また、デザインや動画制作に力を入れている学生も多いので、そのような学生も啓発活動や広報等の機会に連携し、それによって小さい子どもと触れ合う機会になり、興味を持つきっかけになるのではないか。ぜひ大学生を巻き込んでいただければ嬉しい。

(事務局)

現在、「保育体験事業」は、地域の中学校に保育体験を募集して、中学生中心で行っており、大学にPRして大学生を募集することはできていない。大学生と子どもの触れ合いについて、今後検討していきたい。

(会長)

今の若者にとって、保育士や小・中学校の先生などになりたいと思うきっかけとして、よく子どもたちと関わっていくことが大切だと思う。また、子どもと関わることで、少子化について少しでも是正するような力になるかなと思うので、市としてぜひ力を入れていただければありがたい。

(委員)

先ほどの「赤ちゃん出会い・ふれあい交流事業」について、本校でも去年、今年と実施していただいた。直接赤ちゃんを抱くことはできなかったけれど、ついでに越しに保護者から出産の時の大変さや子育ての苦労等の話を聞いて、中学生は良い経験ができた。この事業については、今12校で実施されているが、できればすべての中学校の生徒たちに体験させたい事業である。

(事務局)

「赤ちゃん出会い・ふれあい交流事業」について、事後のアンケート調査結果を

## 審議経過及び審議結果

見ても、今後の生活を考えるためによかったという意見が非常に多く、今後全校でもできればいいなと考えている。来年度に向け先日希望調査を行ったところであるが、すべての中学校ではないが、希望する学校に対しては実施に向けて検討したい。

(会長)

「高松市ならでは」ということや、全国に向かって胸を張れることがあれば、教えていただきたい。

(事務局)

今年、国から依頼があり、「地域子育て支援拠点事業」と「中学生と乳幼児のふれあい事業」について事例発表した。本市は子育て支援拠点多く、中核市の中で、全国で4位、松山市と並んで昨年度は31箇所であり、全国的にも高評価を得ており、これからも実施していきたい。

また、「子ども食堂等支援事業」について、本市は平成30年の早期から子ども食堂への支援策として補助事業を実施している。現在、子ども食堂をやめていく団体もあるので、各小学校区に概ね一つという目標に向けて支援策の見直しを考えているところである。

(事務局)

全国的に、自治体の子ども・子育ての取組みに対する評価について色々な視点で評価されており、拠点の数や、民間との協働という視点で見た場合、高松市が高い評価をいただくという現状があるので、これからも引き続き、色々な方の協力をいただきながら進めていきたい。

(委員)

現在、非常に物価が高くなり、保護者の方々も経済的に苦しいところも出てきているが、高松市から給食の提供に係る補助金をいただくようになった。ぜひ今後、継続していただければ大変ありがたい。

(委員)

香川県知事が替われ、知事も子ども・子育てに力を入れるということですので、ぜひ高松市も事前の連携を十分にとっていただきたい。子ども家庭庁もでき、大きく次のステップに行くときなのかなと思っているので期待している。

## 議題(2)について

(委員)

「放課後児童健全育成事業」の見直しについて、「令和4年度以降は女性就業率の増加が緩やかになることが想定される」とあるが、この根拠はどういうことか教えていただきたい。増加する可能性もあるのか。

(事務局)

これまでの継続率と増加率を踏まえ算定すると、実際の数値とは全く合わないのので、現状と合わせるため、そのように数値を置いた。

なお、待機児童数が前年度より増えているが、今後、民間の放課後児童クラブがいくつか創設されるということと、支援員の確保に努め、公設のクラブを増やせないかと検討しているところである。

待機児童の発生していない自治体もあるので、他市の取組みも見ながら、また、各地域によっても空きがあるところがあるので、そのバランスも考えて対応してい

## 審議経過及び審議結果

きたい。

(委員)

現在、父・母の調子が悪くなるとよく来る子どもがおり、ショートステイではなく一時保護で預かるのだが、それも日によって場所が変わり、子どもには申し訳ない気持ちである。住んでいる近くにある市のショートステイで、簡単に利用しやすくていいと思う。今後とも様々な面で考えていただきたい。

(事務局)

こちらでもできるだけ家庭の希望に沿った状態で、ショートステイの受入れをしていきたい。コロナの影響もあり受入れを中断しているところもあり、御希望に添えない場合、親御さんから県の方に御相談させていただいている現状である。土日や御希望が多い時期に重ならないように、受入れ先を少し増やしていく方向を考えている。里親委託についても、検討はしているが、開始時期はまだ見えないため、引き続き検討し、拡充してまいりたい。

(委員)

ギガスクール構想でかなりICT化が推進されている。私立幼稚園の場合は、所管が香川県になるので、香川県のICTの補助金がある。

そのICTに係る補助金には二つの目的があり、一つは、「ICT教育」、教育の中でどう取り入れるかということと、もう一つは「業務の簡略化」、職員の事務的などところを少しでも軽減するという目的があり、今のところ香川県の場合、教育の中でどう取り入れるかは模索中である。事務的な内容や保護者との連絡においては、かなり便利に使うことができている。

(委員)

同じく補助金が出て、「業務の省力化」についてはできているが、「ICT教育」についてはできていないのが現状にある。

高松市は全国に比べて早い時期に、私立の保育施設に対し、ICTの補助金が出て、大方の保育園がICT化による業務省力化を行っている。残念ながら、市自体のICT化が進んでいないこともあり、市職員も一緒にオンライン研修に参加できていないので、今後改善してもらいたい。

(事務局)

私立保育所・こども園については、既に、本市から、業務効率の観点で、ICT化の補助制度を設けて推進を図っている。また、近年ではコロナ関連で感染防止対策として、オンライン会議等ができるよう、補助金を活用したICT化も進めているところである。加えて、令和4年度において、本市の全ての市立保育所・幼稚園・こども園において、タブレットを導入することとしており、11月から運用を開始する予定である。

その他、委員からの質疑・意見等はなく、以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以上